様式１

実 践 報 告 資 料

研究テーマ『人の痛みに寄り添う人権教育の推進』

研 究 内 容 【 (1)、(2)、(3)、(4) 】

学校名（豊岡市立五荘小学校）

ア　人権教育としてのねらい

・　すべての児童が“ありたい自分”“なりたい自分”の姿を想像し、自己実現を図るための土台となる力を育成する。

・　自分や他者の「痛み」（困り感、劣等感、わからなさ、できていなさなど）を自分事としてとらえ、多様な個性や価値観を認め合う心を養う。

・　すべての児童が多様な個性や価値観をもつ仲間として、ともに生きていくための資質を育成する。

イ　研究の概要

授業研究を核として、感じ方・とらえ方・考え方の違いを認めたり、自己有用感を感じられたりする授業づくりをすすめるとともに、授業づくりと学級づくりの一体化を図る。また、人権教育資料の効果的な活用や、教育活動全体を通して、新たな人権課題の解消に向けて主体的に取り組む態度の育成を図る。

豊岡市人権教育推進協議会豊岡支部等の関係機関や、家庭、地域との連携の在り方についても研究を進め、研修の質的向上をめざす。

教科等	各教科（社会）	特別の教科　道徳	総合的な学習の時間	特別活動
指導者	６年担任・推進委員	２年担任・推進委員	４年担任・推進委員	５年担任・推進委員
実施日	12 月 19 日	７月４日	12 月１日	７月 11 日
取組名	わたしの水平社宣言をつくろう	言葉の使い方を考えて生活をしよう	みんなが安心して過ごすための工夫を考えよう	ネットトラブルについて自分事として考えよう
目　標	水平社宣言に込められた願いを知り、差別のない社会を実現していこうとする意欲を高める。	インターネット端末を介して習得する情報の特徴を理解し、差別を助長するような不適切な言葉があることに気付くことができる。	一人一人が安心して生活できるように、みんなが使いやすい工夫（ユニバーサルデザイン）について考える。	無料通話アプリやＳＮＳ等による誹謗中傷やネットいじめの実態を知り、相手を傷つけないコミュニケーションのとり方を考える。
資料名	「私の水平社宣言をつくろう」『ほほえみ』（県教育委員会）	「なんであかんのやろ」『ほほえみ』（県教育委員会）	「どんな工夫ができるかな」『ほほえみ』（県教育委員会）	「自分が同意していない画像をインターネット上に載せられたとき」【資料①】「誘いを断っただけで、グループトークから外されたとき」【資料②】『ほほえみ』（県教育委員会）
指導内容や指導方法の工夫等	大正時代～明治時代の背景を把握させる。 水平社宣言を読む前に「水平」の意味を捉えさせ、差別されてきた人々の思いや願いに共感させる。 自分の生活につなげて、差別をなくそうとする意欲を持たせる。	登場人物と自分自身の経験を関連付けて考えさせ、資料に置ける場面の状況を把握させる。 登場人物の心情を変化させる言葉に注目させ、普段の言葉の使い方について、考えさせる。	登場人物の困り感を自分事として考えさせる時に、「環境要因」に目を向けさせる。 バリアフリーからユニバーサルデザインへ視点を転換させて、工夫をすることによりみんなが過ごしやすくなることに気付かせる。	資料①では、現実世界でのトラブルとインターネット上でのトラブルの２つの視点から考えさせる。 資料②では、グループトークから外されるまでの流れを、ロールプレイングさせ、自分事として、状況把握させ、考えさせる。